

地域ニーズに応えるデザイン支援の取組みについて

造形学部 スマートデザイン学科 林 羊歯代

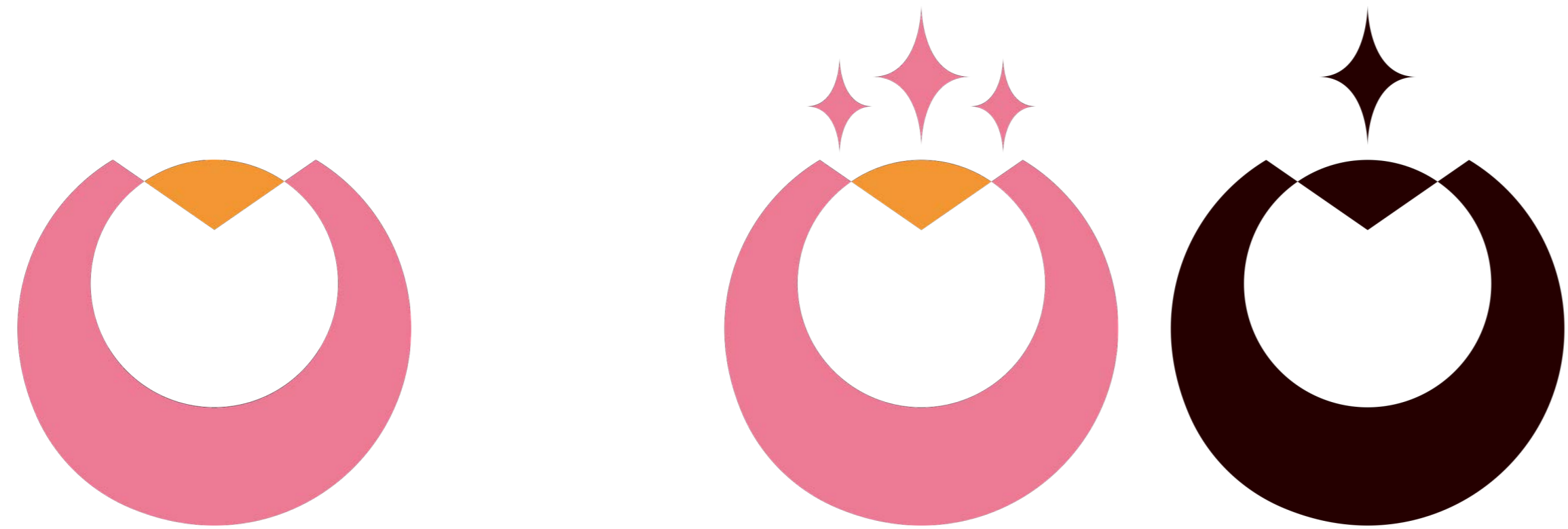
包括連携協定に基づく活動

本学では、以下3つの包括連携協定に基づき自治体・地域団体と連携しながら、ロゴマークからリーフレット等の広報物、ワインラベル、公共広場の野外ステージ背景、救急車のカーラッピングまで、様々なデザイン提供を通じて地域活動を支援してきた。ここでは、その事例の一部を紹介する。

- 「岡崎市と学校法人愛知産業大学及び愛知産業短期大学との連携協力に関する包括協定書」(2015年9月28日締結)
- 「JAあいち三河と愛知産業大学・短期大学との産学連携協定」(2020年8月28日締結)
- 「一般社団法人岡崎市観光協会と愛知産業大学・愛知産業大学短期大学の連携協力に関する包括協定書」(2021年3月4日締結)

岡崎市男女共同参画推進ロゴマーク

2021年7月、岡崎市(社会文化部多様性社会推進課)は、岡崎大学懇話会の4大学(愛知学泉大学、愛知産業大学、人間環境大学、岡崎女子大学の各短期大学)に向け、岡崎市男女共同参画推進事業及び男女共同参画推進事業所表彰制度に関わるロゴマーク作成を依頼、デザイン案を募集した。そこで本学から応募したデザイン学科3年生(日浅アリサさん)の案が最優秀作品に選ばれ、翌2022年にロゴマークとして決定。2026年5月現在も男女共同参画推進の啓発シンボルとしてこのロゴマークが使用されている。



岡崎市男女共同参画推進ロゴマーク

表彰制度での使用を想定したバリエーション
上部のダイヤの数で推進の達成度を表すことを想定していた。
右はモノクロのバージョン

■ デザインのコンセプト

花のつぼみのイメージ。大小2つの円は「男女平等」と「個性と能力」を表し、つぼみが開いて花となる＝すべての人が自分らしく輝けるという願いを込めている。また両手で宝石を掲げるようなイメージは、自分自身の能力や個性を信じる「自信」をもつことの大切さも表している。色は、岡崎市の花「さくら」「心」の色をイメージしたピンクと、つぼみの部分に「陽気」「賑やか」「ポジティブ」な印象をもつ橙を使用している。

さくらピンバッジに4年連続でデザインを提供

岡崎市では、3月下旬の桜まつりに合わせて毎年さくらピンバッジが発売される。2021年の「令和3年バージョン」から2024年の「令和6年バージョン」まで、4年連続で愛知産業大学がさくらピンバッジのデザインを提供した。いずれもデザイン学科とスマートデザイン学科のイラストレーションが得意な学生による。さくらピンバッジの制作販売を担う一般社団法人岡崎市観光協会と大学は、第1作の完成を機に連携協力に関する包括協定を締結。



2021～2024年のさくらピンバッジ
毎年3月下旬に岡崎城公園周辺で開催される桜まつりで発売される、オリジナルのさくら型バッジ(真鍮製ニッケルメッキ仕上げ)。左から令和3年、令和4年、令和5年、令和6年バージョン。



ラジオ広報「こちら、おかざき情報室(763)」の収録
「令和3年バージョン」作者の山口朱音さん(2021年3月)

岡崎市観光協会担当者との調整
「令和5年バージョン」作者の尾関萌夏さん(2022年12月)

岡崎市ブランド化推進品目を紹介するリーフレットシリーズ

岡崎市農林業振興推進実行委員会は、JAあいち三河の協力を得て、岡崎市ブランド化推進品目を紹介するリーフレットシリーズを、2019年～2024年に5種類作成した(法性寺ねぎ、なす、いちご、自然薯、ぶどう)。2019年の第1作から愛知産業大学はすべてのリーフレットにイラストレーションを提供している。いずれもデザイン学科とスマートデザイン学科の、イラストレーションが得意な学生によって制作された。毎回学生たちはJAの職員とともに生産地へ行き、取材に基づいて野菜や果物、生産風景を描いた。第1作完成の翌年2020年に、JAあいち三河と産学連携協定を締結。



岡崎市ブランド化推進品目を紹介するリーフレットシリーズ
左から法性寺ねぎ(2019)、なす(2021)、いちご(2022)、自然薯(2023)、ぶどう(2024)。
右は自然薯のクレパーパイプ栽培法を描いたイラストレーション(大月里紗さん)。産地の取材が生きている。



岡崎市ブランド化推進品目を紹介するリーフレット「いちご」(2022)
好評であったキャラクタ化したいちごのイラストレーションは紋谷涼音さんによる

岡崎市消防本部の救急車カーラッピング

2025年7月、岡崎市消防本部消防救急課救急対策係より、岡崎市と愛知産業大学の包括連携協定に基づき、救急車カーラッピングデザインの依頼を受ける。デザインの基礎教育を受ける学生がいないため、消防本部と大学(学生と教職員を含む)を対象にデザインを公募するかたちで進めた。岡崎市消防本部から11点、愛知産業大学から4点の計15点の応募があり、スマートデザイン学科3年生(安井七海さん)の鮮やかな毘沙門亀甲紋様を配したデザインが採用された。救急課の担当者とともに、原案からのブラッシュアップを重ね完成に至る。

■ デザインコンセプト

毘沙門亀甲紋は毘沙門天が勝負の武神であることから、「病に打ち勝ってほしい」という意味を込めている。EMSを包む藤の花言葉に「決して離れない」「優しさ」があり、市民に寄り添い、最後まで命を守ろうとする消防の姿を重ねた。



岡崎市消防出初・観閲式(2026年1月11日、岡崎城公園多目的広場)でお披露目された救急車
右は、救急課の担当者から説明を受ける安井七海さん(2025年7月)